



# 道連ニュース

2012年10月号 No.76

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

～道連第3回理事会～

## 役員・幹部職員研修会及び税務講習会は2月19日開催に

10月4日道学校生協の伊東理事の議事進行で開催されました。

報告事項は①一般活動経過②事業連携PJ③上半期決算④協賛・後援⑤北海道他からの通知⑥地連報告があり確認されました。尚、NPOホクネットの運営に関する会費納入について来年度は白紙として、今年度中の穏便な決着をとのスタンスを確認しました

議決事項では①道連事務局員交代②研修会企画③1月理事会運営が議決されました

審議事項では①「社会保障と税の一体改革」への対応②「さようなら原発北海道1万人集会」の件などが議論されました。

尚、1月理事会終了後には、道内学校生協部会と合流し、在札拡大役員新年懇親会の企画を予定します

## さようなら原発北海道1万人集会

10月12日満員の共済ホールでさようなら原発北海道講演会が開催されました。

「2003年劣化ウラン弾問題で“No Nukes!”を掲げデモをした。日本の原発のゴミが劣化ウラン弾になっている可能性がある。原発は地域を分断する。そもそも非民主的なもの。多くの人が声をあげるようになったことすばらしい。議員を引きずり出すきっかけになった。」という雨宮処凛氏に中島岳志氏は「世論は流動するので直接民主制だけでは危ない。国会と国会を囲むデモの『二重のアセンブリ(柄谷氏)』が良い。どこに行くべきか見据えながら脱原発運動を持続可能なものにしていくべき。」と応えていました。鎌田慧氏は「ウソ

と金と脅して原発は作られてきた。原発は民主主義の対極にある。3月9日は全国で100万人集会をして原発を断念させる。」と熱い



「便利になって人間はサボることを覚えた。もっと自分のエネルギーを使うべき。」と語る倉本氏

思いを語っていました。翌13日は大通り公園でさようなら原発1万人集会が開かれ、呼びかけ人の小野有五氏、西尾正道氏、雨宮氏、倉本聡氏の挨拶と上田文雄氏、泊、大間、幌延から発言があり、その後2手に分かれデモを行いました。倉本氏は「電力供給が足りなければTVの放映、コンビニ、自動販売機など需要仕分けをすべき。脱原発を掲げる議員は、大飯原発再稼働時に押し寄せ妨害した水くらのげのマークをつけたらいい。」と話し、大きな賛同の拍手がありました。



中島氏と雨宮氏の対談「市民が当たり前にデモをする社会に」

国会を囲むデモの『二重のアセンブリ(柄谷氏)』が良い。どこに行くべきか見据えながら脱原発運動を持続可能なものにしていくべき。」と応えていました。鎌田慧氏は「ウソ

## 「市民後見人」取り組み論議スタート!

10月22日、9団体(コープさっぽろ、全労済、道医療生協、住宅生協、高齢者福祉生協、道大学生協事業連合、ワーカーズコープ、ほくろう、道生協連)が参加し、第5回事業提携推進委員会が開催されました。

会では、報告事項として10月17日に事業提携実務者会議が開催され、重油・紙おむつの共同購入と配食弁当・葬祭事業(フリエ)紹介事業の具体化取り組みがスタートしたこと、元気プロ小野代表からは、この間の取り組みとして新さっぽろの「複合型福祉施設」の建設オーナー探しにめどが立ってきたこと、10月3日に札幌副都心開発公社に挨拶に行き元気プロの構想をお話したところ、公社社長から計画について高い評

価と期待が寄せられたことについて報告がありました。

協議事項では、前回事務局から報告のありました、「市民後見人調査のレポート」とその後のヒアリング調査結果に基づいて意見交換が行われました。参加者全員から活発な意見が出され、市民後見人への取り組みは、「養成講座開催」に留まらず「活動センター」を想定した調査・研究・討議を引き続き重ねること。また、基礎知識についての学習会を関連する諸団体にも呼び掛けて開催することが確認されました。

次回開催は、12月12日とすることを確認して事業提携推進委員会は終了しました。

# 生活クラブ生協 わくわくまつり開催

30周年を迎えた生活クラブ北海道。子どもの頃、親が組合員だったという人が、今は、自分が組合員となって、新しい家族とともに、消費材(生活クラブの品物)を食べているという人が増えています。昔から変わらないこだわりの材で作る料理は、素材の良さを実感できるものであり、それが今、3世代目へと受け継がれています。

素材がわかる消費材を多くの市民に知ってもらえる機会となる「わくわくまつり」。今年は10月21日に開催されました。約4000人が集まる大きなまつりですが、組合員が中心となって企画するので、ほとんどが手作りです。数か月かけて準備をするのですが、そ



の中で大切にしている取り組みは、環境負荷を減らす努力をすることです。例えば、会場で使用する電力を風力発電にしたり、来場者にマイ食器を持参



してもらい、使い捨て容器を極力使わない呼びかけをしながら、ごみを減らす取り組みもしました。また、30年間続けてきた、脱原発のメッセージも欠かせません。福島の事故をきっかけに、ほぼ全品放射能検査をしている生活クラブ。これ以上、原発事故で農産物を汚染させてはなりません。ステージでは人形劇や紙芝居を使って、展示コーナーでは写真やイラストなどを使って、脱原発を訴え、来場者の関心を集めました。

## コープ さっぽろ 谷川俊太郎朗読会 ～めのだあける:ことばから広がる世界へ～ 10月11日

絵本作家で詩人の谷川俊太郎さんの朗読会を道新ホールで開催しました。8月申込受付開始から一週間で満席・完売となり、さすがに谷川さんの人気は絶大です。大人と子ども700名が参加し、絵本の楽しさを満喫しました。

コープさっぽろは、家庭での親子のふれあいや次代を担う子どもたちの成長を安心して支える環境づくりを支援することを目的に「コープ子育て支援基金」を2010年に創設し、その取り組みの一つとして、小さなお子さまのいる子育て世帯を対象に、2年間で6冊の絵本を無償でお届けする「えほんがトック」を実施しています。今年3月には谷川俊太郎の絵本「めのだあける」を北海道内13,309世帯のご家庭に配布し、大変ご好評を頂き喜びの声がたくさん寄せられました。基金ではこのつながりを大切に、谷川



俊太郎氏をお招きして朗読会を開催することにしました。

朗読会では谷川俊太郎さんの朗読や小学生15名の群読、詞から連想して組合員さんが書いた絵を見てコメント、会場との掛け合い朗読、お母さんとの質問トーク、谷川さんが作詞した一昨年のNコン課題曲「いのち」全道優勝の旭丘高校合唱部85名による合唱など多数の企画での参加型朗読会となりました。

来場者のアンケートの回収率はとても高く、朗読会について「大変良かった」との声が9割を超えており、感想欄にも「とても良かった、楽しかった、あっという間の90分だった、また期待しています」などたくさんの感謝とお礼の言葉が添えられていました。



## 北海道大学生協 「北大生のための公務員試験対策講座」

北海道大学生協同組合より、「北大生のための公務員試験対策講座」の紹介をさせていただきます。

ご存知のとおり、北海道大学は「旧七帝大」です。本講座受講生には「地方公務員(都道府県庁、市役所など)」のみならず、「国家公務員」を目指す人も多く在籍しており、より広範囲で深い知識を学習することを大切にしています。2012年5月より第1期生98名の



学習が始まり、約1年をかけて(5月～翌年6、7月ほどまで)十数科目を学習し、公務員試験合格・就職内定を生協をあげて支援す

る講座です。

公務員試験には「教養科目択一」「専門科目択一」「専門科目論述」「面接」「集団討論」など、様々な試験内容があります。生協の公務員講座の最大のポイントは、「同じ大学で就職(内定)された先輩が、後輩に直接経験・学習法などを伝えて合格・就職を支援する「上級生サポーター制度」を行っている」点です。生協ならではの「人と人をつないで協力し合うメリット」を最大限活かし、高い合格率を目指した運営を行っています。

「北海道大学から、未来の日本や各地域を担う公務員を輩出する」ことを最大の目標とした公務員試験対策講座を、今後とも温かく見守ってください。